

1. 5次避難所への介護職員の応援派遣に協力をお願いします。

- 1.5次避難所では、現在、約230名の方が避難生活を送っています。そのうち約9割の210名が65歳以上の高齢者であり、介護が必要な方も多くおられます。
- 介護支援を行う職員については、1月15日以来、全国から累計850名余（1日あたり平均90名弱）の方に応援いただいておりますが、3月1日以降の介護職員派遣の応募が大幅に不足しております。
- つきましては、通常の業務もある中でお忙しいところとは思いますが、被災者の支援のため、1.5次避難所への介護職員の応援派遣に協力をお願いいたします。

（詳細：裏面参照）

ご賛同いただき、派遣に御協力いただける場合は、下記入力フォームに派遣いただける職員様個人のお名前・連絡先等をご記入いただけますようお願いいたします。

<https://60fbc148.form.kintoneapp.com/public/staff-registration>

※ フォーム上ご登録いただければ、ご希望の勤務日・勤務形態で派遣決定のご連絡を差し上げる予定です。



< 応援派遣をご検討いただきたい内容 >

■派遣期間

3月1日（金）～3月31日（日）のうちご都合のつく期間

※1 特に直近の3月上旬も介護職員が不足しております。

※2 3月31日（日）までの一部（単日から可能）でも派遣可能な方はご検討ください。

■派遣場所

「いしかわ総合スポーツセンター」（石川県が設置する1.5次避難所）等への応援派遣
〒920-0355 石川県金沢市稚日野町北222番地

【交通手段】

車：金沢駅金沢港口から車で約20分

バス：金沢駅から済生会病院もしくは下安原行き、総合スポーツセンター前バス停下車

<https://www.ishikawa-spc.jp/access/index.html>

※石川県庁では、上記のほか「産業展示館」にも1.5次避難所を開設しており、現地の状況によっては産業展示館への応援をお願いする場合がございますのでご留意下さい。

(<https://ishikawa-odekake.jp/westpark/facilities/Santen/>)

なお、「いしかわ総合スポーツセンター」から「産業展示館」へは徒歩圏内です。

■従事内容

日勤シフト（8時～20時）か夜勤シフト（20時～翌8時）で、高齢者等の方のケア業務に従事いただける方

※ 応募の状況によってシフトの調整等をお願いする場合があります。

■宿泊先

上記スポーツセンター等の仮眠スペースでお休みいただくことも可能です。

ホテルでの宿泊をご希望の方で、ご自身での宿泊場所のご用意にお困りの方は以下にお問い合わせください。

（株）阪急交通社 0570-07-1289（受付時間は平日9:30～17:30、土日祝日は9:30～13:30）

■感染防止対策について

・現地では感染症が流行する恐れもあるため、基本的な感染予防対策等の徹底をお願いいたします。詳細については下記URLをご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001195825.pdf>

（関係通知）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001186590.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/001187343.pdf>

■宿泊費等の旅費に係る費用負担等について

・上記の通り現地には無料の仮眠スペースもございますが、ご自身で宿泊場所を確保いただいた場合の宿泊費等の旅費につきましても、別添事務連絡の通り公費支給の対象となります。

・上記旅費については、一旦ご自身でご負担いただき、事後精算となりますのでレシート等の保持をお願いいたします。

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課施設係・指導係
（代表） 03-5253-1111（内線2864/2865）
（ダイヤルイン） 03-3595-2616
Mail：mailto:syahuku-chousa@mhlw.go.jp

災害派遣レポート

※福岡県介護福祉士会から派遣された方の体験談を掲載しています。検討に当たってご参考ください。

1. 派遣期間

1回目：1月15日～1月20日

2回目：2月1日～2月7日

2. 活動内容

- ・石川県総合スポーツセンターのマルチアリーナを担当
- ・40床（特殊寝台、サイドテーブルあり）あり、介護が必要な方が多い
- ・夜勤（18時～7時）
- ・おむつ交換、体位変換、水分補給、不安な方への対応など
- ・移動介助及び移動見守り



3. 活動を終えて

1回目の派遣時は、毎日一次避難所から避難者が来られ、毎日10人くらい入れ替わっていたため、ショートステイのようで、新しい避難者のアセスメントに気を遣った。2回目の派遣時には、次の行き先を決められずに長く滞在する方が増えており、特養のイメージに近くなっており、生活の場とは言えない避難所でいかに快適に過ごしてもらおうか心を砕いた。ベースは同じ生活支援だが、その時々臨機応変な対応が必要だった。

日々の業務で行っている感染対策や、自立支援を視野に入れた介護や声掛けを行う事には変わりはない。常に命の大切さを意識し、生活の在り方としてこれでいいのか、大丈夫なのか、足りないものは何なのか。要介護者の視点で考え、見えにくい困りごとを拾っていく。ともに活動した介護福祉士の意見で学ぶ事も多い。

感染症の蔓延の恐れや余震が続く中での派遣は、職場の理解と共に働く仲間の協力、私が受け持つ利用者とその家族の後押しがなければ実現しなかった。

活動後に大規模災害時の施設の事業継続や地域の方が避難してきた際の福祉避難所としての運営も視野にいたれたBCPの見直しを行い、職員と共有している。「入所者の安全を確保し、介護を継続しながら、建物の被害状況への対応、通所者や職員の安否確認等を行い、避難者の受け入れなどを行う」訓練を行う予定。

最後に福岡で災害が起きた時、どう対応したら良いか、一緒に災害派遣に行った仲間とこれから考えていきたい。

